

京都生協の特例子会社 「ハートコープきょうと」 障がい者雇用促進 コンテナ洗浄 生産性アップへ 2015年度 1日6千個を計画

京都生協は、障がい者雇用の拡大に向け、2013年4月に特例子会社、ハートコープきょうとと本社・京都市南区、鮫江賢光社長）を設立。社員6人（内障がい者5人）で宅配で使用するおり



山田共夫専務

たみコンテナの洗浄事業を行っている。「設立から1年半、退職者も事故もなく経過した。3年目を迎える2015年度は次のステップに入る（山田共夫専務）。生産性のアップと新事業の準備を進める考えだ。

ハートコープきょうとの設立について山田専務は「法定雇用率2%に達することを目的に、先進企業、先行事例に学びながら特例子会社設立の準備を進めてきた」とし、大阪いずみ市民生協のハートコープいずみの事例を取り入れたほか、エラビの子会社のダックス四国の且田久雄社長から特例子会社設立で社員選考に至るまで具体的なアドバイスを受けた。事業内容は、京都生協で



「オリコン洗浄脱水機」（クレオ社製）

使用するおりたみコンテナの洗浄作業。オリコン洗浄脱水機「クレオ社製」を導入し、1日実働6時間で約5千個（同機の能力は1千個/時）を洗浄している。京都生協とは「コンテナの個数単位で契約している。洗浄脱水機」は遠心脱水のため、乾燥機に比べて静穏性や省エネ効果が高く、夏場の作業負担を軽減。長時間の連続稼働が特徴となっている。

高まった。一人ひとり目標を持つこと、洗浄脱水機の能力に合わせた生産性がアップした（山田専務）。営業利益では赤字になっているという。社員には「生協は組合員の利用で成り立っていること。コンテナを洗浄することで組合員が気持ちよく利用できることを理解して、仕事について目標を持って、安全に多くのコンテナを洗浄することを目指して来た」と。また、社員同士で旅行やカラオケなど交流の場が増え、職場の雰囲気も良いという。

2015年度は、チャレンジとして、①1日7時間稼働で6千個の洗浄②安全面やビジネスの観点から社員教育の充実③2016年度をめぐりにサイクル事業の参入検討を進める。

次には各社員の抱負や思いを聞いた。

▽吉岡政文さん「少しずつですが仕事の面白さが分りました」

▽川上敏典さん「少し成長したと思います。任せられた



1日 5千個から2015年度は 7時間稼働で 1日 6千個の洗浄を計画

始め、自信もつきました」

▽藤田正蔵さん「1年半たつて仕事にも慣れました。仲間と旅行や遊びに行くことが楽しみです」

▽三好浩平さん「コンテナをきれいにして、組合員さんによるこんなもらいたい。この仕事を始めて両親も励ましてくれてます。カラオケが趣味でAKBの歌で盛り上がりたます」

▽川上敏典さん「少し成長したと思います。任せられた

仕事以外、次のことや自分に何かできるかを考えるようにしています」

▽森下太貴さん「自分の働いたお給料で遊びに行けるようになりました。毎月の給料日がたのしみ」

作業指導を担当する島本弘子さんは「1年半たつて作業のスピードがかなりアップしている。いろいろ課題もあるが、何よりも休まず、5人がまとまって仕事をしてくれている」と話している。